



繰り返す流産は、いつ習慣流産と考えられる？

35歳以上の女性の妊娠では、卵子や胚の質の低下により、流産が増加します。流産は妊娠の合併症であり、約15～20%に起こります。大多数は、妊娠10週未満の初期流産で、1、2回連続して起こったとしても、それは自然なことです。

●不妊症・習慣流産を疑う時

流産の要因は、卵子の質や胎児の染色体異常、遺伝的な要因が大きいと考えられてきました。現在は、3回以上連続する自然流産は、習慣流産と考えられていますが、その原因はまだ分からないことも多くあります。しかし、以下のような母体の子宮内膜の問題が注目されています。

➡慢性子宮内膜炎

免疫細胞（形質細胞）が内膜に炎症を引き起こす。細菌やウイルスが原因となることもある。

- ⇒ 内分泌（ホルモン）異常
- ⇒ 血栓症
- ⇒ 子宮奇形
- ⇒ 子宮筋腫・ポリープ
- ⇒ 子宮腺筋症

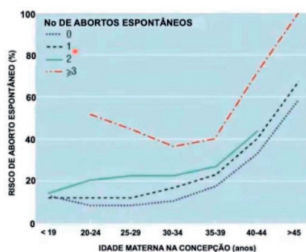
●連続3回以上の流産が起こったら

3回以上の連続する流産は、習慣流産の可能性が高まります。グラフは、加齢による流産のリスクを示し、2回までは流産のリスクに大差はありませんが、3回以上繰り返して起こる人は、年齢や原因に関わらず、不妊症となるリスクがさらに高まります。

妊娠しても流産が続いて不安な場合、早めに検査を受けることで、原因に合わせた治療を受けることができます。習慣流産は決して絶望的ではなく、流産と向き合いながら、出産を目指すことが大切です。

※フェルチクリンの中野英二医師にお話をいただきました。

《加齢による流産のリスク》



ESHRE Capri Workshop Group. Hum Reprod Update. 2008;14:293-307

フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista- São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566

www.ferticlin.com.br / contato@ferticlin.com.br

